



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2026

6

月号

Vol.184

毎月1回発行(通巻184号)
編集: 日本医療企画一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>

第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会 演題発表登壇者募集中!

社会性豊かな医療の実現に向け 自身の取り組みの成果を伝えよう

11月21日(土)・22日(日)に開催する第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会では16枠の医療経営士による演題発表が予定されている。今大会でも貴重な実践報告がなされ、大きな学びが得られることを期待したい。

現在申込受付中の演題発表について、これまでの演題発表者の傾向を振り返ってみる。

総数は少ないながらも
女性の活躍が目立つ

医療経営士による演題発表は第1回東京大会から毎回行われており、第14回神奈川大会までに180組184名が登壇してきた。

男女比を見ると男性が157名(85・3%)、女性27名(14・7%)となっており(図1)、これは会員全体の男女比(男性86・8%/女性13・2%)とほぼ同等である。

しかし受賞者に限って言えば、数は少ないながらも女性の医療経営士の活躍が目立つ。昨年の第14回神奈川大会では、登壇者20名のうち女性は2名だったが、藤田医科大学岡崎医療センターの棚野由美氏がインパクト賞、社会医療法人加納岩財団事務局の横森裕香氏がイノベーション賞を受賞。一昨年も登壇者16名中女性は2名だったが、それぞれ受賞している。

医療経営の分野ではまだまだ女性の数が少ない。女

性の医療経営士が最前線で活躍する姿が多くの方の励みとなり、新たな潮流を生む源流となることを期待したい。

多様な視点からの発表が
新たな気づきにつながる

次に勤務先別の割合を見ると、医療機関勤務者が155名(84・2%)、医療機関外勤務者が29名(15・8%)となっている(図2)。協会の会員数では医療機関勤務者が22・1%、医療機関外勤務者が77・9%となっており、発表者の

割合は完全に逆転している。

昨年の神奈川大会では唯一の医療機関外からの発表となった株式会社栗原医療器械店の渡邊新之介氏は、発表後のコメントのなかで、「発表をきっかけとして医療機関から相談を受けたこともあった」とし、「私のような周辺事業者だからこそ発信できる視点もある」と述べている。

医療経営士は業種・職種を問わず、誰でも取得できることが大きな魅力だ。今回の大会テーマは「地域とともに歩む社会性豊かな医療の実現」。医療機関を含め、地域社会を支えるさまざまな立場からの声が、より深い学びにつながるはずだ。

演題発表の申し込みは全国大会の特設サイトから受付中。

図1 演題発表(累計) 男女比

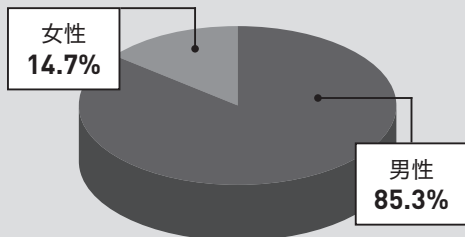
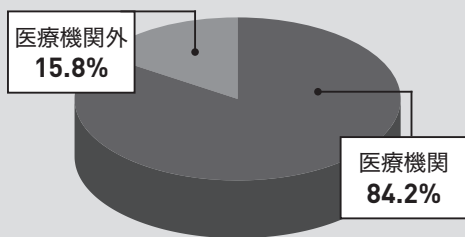


図2 演題発表(累計) 勤務先別比



※データは2026年4月15日現在に基づく

第15回

全国医療経営士実践研究大会

東京大会

開催日

2026年
11月21日(土)
22日(日)大会
テーマ

地域とともに歩む社会性豊かな 医療の実現

—— 病院経営が危機的状況にある今こそ、医療経営士は一致団結し、使命感を持って地域医療の崩壊をくい止めよう！

会場

ステーションコンファレンス東京

演題発表および参加申込は
大会特設サイトから受付中【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 taikai@jmmpa.jp

医療経営に関心のある方をつなぐ ハブとしての機能強化を図りたい



日本医療経営実践協会北海道支部ではこれまで支部長を務めていただいた田中繁道先生に代わり、新たに上村修二氏（札幌医科大学 医学部医療安全・病院管理学講座 准教授／附属病院経営戦略部 副部長／医療経営士1級）が支部長に就任した。現在、全国に8つの支部があるが、支部長に医療経営士が就任するのは初めてとなる。上村氏より、支部長就任に当たっての想いをお話いただいた。

医療機関所属の会員が多い 北海道支部の強みを活かす

この度、田中繁道先生の後任として北海道支部支部長に就任することとなりました。北海道支部では、2024年6月に、現場の医療経営士が自ら発案、協議して実践する研究会を運営していくことを目的に実行委員会が発足しました。私自身、道内の医療経営士を盛り上げていきたいという想いがありましたので、手を挙げて参加させていだきましたが、その際にたまたま実行委員長に担がれまして、この2年間務めさせていただいております。

今回の支部長就任につきましては、その流れからつなぐた貴重な機会だと受け止めています。重責ではありますが、力を尽くしてまいります。皆さまよろしくお願いたします。

さて、北海道の医療経営士の状況を見ますと、医療機関に所属する方の割合が非常に高いという特徴があります。全国では割合が22・1%のところ、北海道では38・7%と約4割に上っています（図）。これは医療機関の内部から医療を良くしたいと願う人材が多いということでもあり、北海道支部の大きな強みだと

考えています。

今後はさらに、医療機関の中でも医療職の方の資格取得を増やしていきたいと考えています。私自身も含め、これまでは医療職が医療経営そのものを深く理解していないがゆえに、病院内で見えない壁や問題を作ってしまう場面が多々ありました。

しかし、事務職だけでなく医師や看護師といったメディカル専門職が医療経営を学ぶことで、病院全体を俯瞰して見られるようになります。自分の職種だけでなく全体の動きや、事務方がどのような思いで業務にあたっているかが理解できるようになるのです。これにより、事務職から医療職へ相談や提案をする際のハードルが一気に下がります。

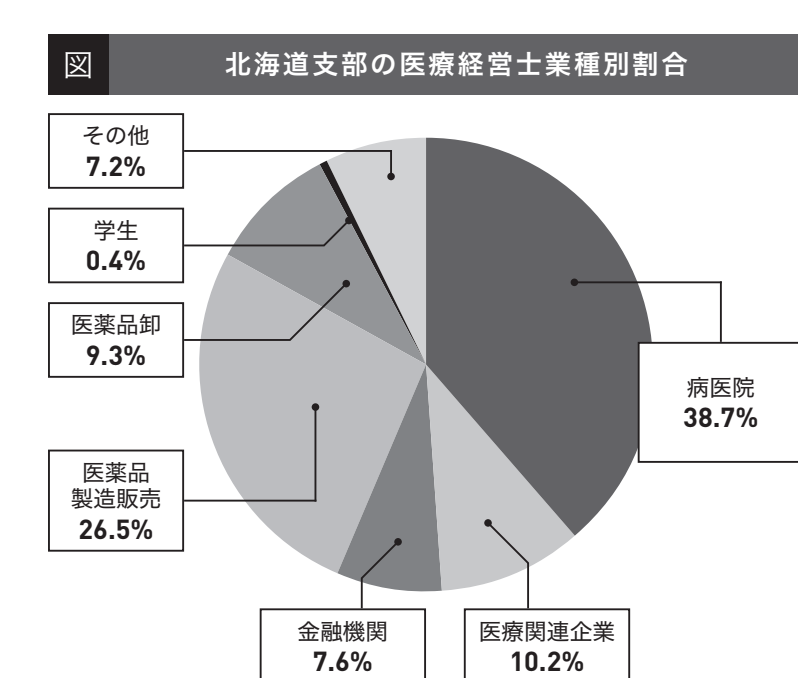
院内に「共通言語」で話せる仲間が増えることは、病院の経営・組織改善に極めて大きな効果をもたらします。だからこそ最近はいくつかの講演の場で病院幹部に向けて「補助を出しても職員に医療経営士の資格を取らせるべきだ。それだけで病院は良くなりません」と勝手に宣伝しているほどです。医療経営士が院内にいることのメリットを、さらに伝えていきたい

と考えています。

外部との活発な連携で 道内の医療経営を盛り上げる

現在、北海道支部では年間4回のイベントを企画・運営していますが、自主研究会の道北医療経営ネットワーク（代表：平間康宣氏・医療法人仁友会仁友会本部本部長）とのコラボや、小樽商科大学が展開する人材育成プログラムHUMMA（北海道病院経営アドミニストレーター育成拠点）との合同セッションなど、外部との連携を積極的に行っているところが特徴です。

また、勉強会のような講義形式だけでなく、昨年から「新年交流会」を始めました。今年2月に開催した新年交流会では、関東支部の神奈川研究会が行っている「合格者のつどい」を参考にさせていただき、新規の合格者の方を招待しています。合格したての一番熱意があるタイミングでコミュニティへ招き入れ、継続的に学べる機会や繋がる環境を用意することも、支部の重要な役目だと考えています。



『理論と実践』No.60 「医療経営士 全国DATA MAP2026」より算出

や釧路などの地方では、医療経営士の有資格者も少なく、人材育成の機会や情報そのものに触れられていない人がまだまだ多いのが実情です。

しかし、コロナ禍以降、オンライン環境が一気に普及しました。現在、北海道支部の企画やHUMMAの講義なども、すべてオンラインで受講できる体制を整えています。地方にこそ、こうした学びの機会を積極的に紹介していくべきです。さらに、来年4月からは札幌医科大学で「北海道病院経営インサイト」という

全10回の新しい実践的プログラムが始まります。

自主研究会、HUMMAと本プログラムは領域が重なっておらず、それぞれに異なる強みを持っています。お互いに宣伝し合い、学びの入り口を増やすことで、より広域へアプローチできると考えています。

医療経営に興味があるすべての人たちが勉強し、知識を共有し合える一つの大きなチームを作りたい。そして、その中心となる「ハブ」の役割を、この北海道支部が担っていければと思っています。

T O P I C S 今求められるリスクマネジメントを考える

正確な情報把握と長期的な視点で ピンチをチャンスに変える取り組みを

安定にはまだ時間がかかりそうな中東情勢。医療材料の調達にも影響が出ており、現場では製品の納入遅れや値上げといった問題も出てきている。このタイミングで医療経営士は何を考えるべきか。日本ヘルスケア経営学院の物品管理コース講師を務める、神奈川県横浜市東部病院事務部副部長の内田力氏（医療経営士3級）にお話を伺った。

正しい状況予測に向け 取引先の情報把握を

今回の物品不足等の問題の背景には、国内で加工している製品の目詰まりがあります。あるメーカーの本部長とも話をしましたが、仕入れ元の原料自体がそもそも値上げされており、さらに「在庫を出し尽くした後、完全に切れてしまうのが怖い」という理由から、メーカー側が供給を絞っているのが現状です。あちこちから欲しいという声が殺到すれば、当然ながら値上げの交渉になります。

病院としては切らさずにはいかないので一定量は買いたいのですが、仕入れ側の値上げに対する交渉には時間がかかり、結果として生産量が落ちて出荷制限がかかってしまいます。企業側も、交渉を長引かせればマイナスで在庫が減るため、高く仕入れた分、赤字を避けるために値上げせざるを得ない局面にきている

のだと感じています。

こうした状況において、医療経営士としては情報収集が非常に重要です。「自院の取引先がどの国のどの工場で作品を作っているか、その国はどこから原料を調達しているのか」という情報を集めることで、今後の見通しが立ちます。

今回はおそらく値上げが続く期間が長くなるでしょう。これから私が院内で取り組もうと考えているのが、医療材料の節約についてのアナウンスです。コロナ禍の時のように少し控えたい使い方を意識してもらうために、仕入れの状況を冷静に説明しつつ、大事に使う工夫を促すことが大切です。

ただし、その際に注意しなければならぬのは「仕入れの量は今まで通りキープしておく」ということです。こちらが節約して購入量を減らしてしまうと、「最近使用量が減ったから次回から出荷枠を減らして他に

回します」と削られてしまう恐れがあるのです。枠はしっかりと買い続け、院内で余力としての在庫を作っていくという戦略的な動き方が求められます。

長期的な視点に立つて 何をすべきかを考える

長期的な視点で見れば、一時のピンチは「攻めのチャンス」にも変えられます。供給が不安定な時期だからこそ、新規の業者からの提案を積極的に聞いてみるのです。先方にとっては

売のチャンスですし、こちらにとってはコストを抑えたり、より安定したサプライチェーンへ切り替えたりする好機になります。医療を止めない前提のもと、こうしたチャンスを見出していくことも医療経営士の重要な仕事です。

地域で物品の「まとめ買い」をする仕組みを揃えていくのも一つの手です。当院でも、近隣の300床クラスの提携病院と購入先を一緒にして量を確保する取り組みや、SPD会社が入るほどの規模ではない訪問看護ステーションや福祉施設向けに、ネットを通じて

同じ価格で大量購入できるような仕組みづくりを、神奈川県医療福祉協議会などを通じてトライしています。

す。

今や病院がお互いに協力し合わなければ生き残れない時代です。そのためには医療経営士同士の交流を二次医療圏単位などより地域密着の形で広げ、新しく資格を取った若い人たちをどんどん巻き込んでいく必要があります。若い人たちを、実際の現場に招き、実践的な研修を行う機会を増やせば、彼らからさらに素晴らしいアイデアがたくさん生まれてくるはずです。

日本は地震も多く、国際的な紛争や感染症など、今後20年、30年の間にも必ず何かしらの有事が発生し、私たちはその影響を受け続けます。ギリギリの経営や、AIの言う効率性だけに頼るのではなく、人間力を活かした「余力のある管理」と、いざという時に助け合える関係を日頃から構築しておくこと。それがリスクマネジメントであり、これからの10年を耐え抜き、地域医療に真に貢献できる病院の作り方であると確信しています。



神奈川県横浜市東部病院
事務部副部長・内田力氏

最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く
「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
フェイス・スリー

7月号
好評
発売中

特集

石油由来製品、医療機器、サイバーセキュリティ、エネルギー、感染症
中東情勢から考えるリスクマネジメント

厚生労働省と経済産業省は5月18日、第5回「中東情勢の影響を受ける医薬品、医療機器、医療物資等の確保対策本部」を都内で開催。本部長を務める上野賢一郎厚労大臣は「足元では、着実に個別の流通段階の目詰まりを一つ一つ丁寧に解消をし、医療用手袋についても備蓄放出による対応を行っており、原油やナフサ由来の化学製品の供給自体も年を超えて継続できると想定しています」。同

じく本部長の赤澤亮正経産大臣は「厚労省と連携しながら供給の偏りや流通の目詰まりを一つ一つ確実に対処してまいりたい」と、それぞれ述べた。しかし、影響の長期化が懸念されていることに加え、サイバーセキュリティなど新たな課題も生じており、医療機関を取り巻く経営環境は厳しさを増している。本特集では、医療機関のリスクマネジメントについて多面から考察する。

詳細・ご購入は
コチラ



事務局 掲 示 板

1級資格認定者のみに許された特権
「医療経営指導士」の制度を活用しよう

当協会では医療経営士1級の方が申請できる「医療経営指導士」の制度を設けています。協会への登録申請(有料)により、「医療経営士」「医療経営指導士」の名称を冠した試験対策講座や研

究会・講演会の主催が可能となり、事業に伴う収益を得ることも可能。資格要件や申請方法の詳細については、当協会ホームページでご確認ください。

【「医療経営指導士」制度について】

<http://www.jmmpa.jp/support/shidoushi/>

会報誌『理論と実践』投稿募集中
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。



【投稿に関するお問い合わせ先】

E-mail : info@jmmpa.jp

PICK UP 研究会

東海支部

山梨研究会×静岡県東部医療経営研究会
第2回医療経営士富士山サミット

富士山を挟んで向かい合う山梨県と静岡県。両県で活動を行う医療経営士の自主研究会である山梨研究会と静岡県東部医療経営研究会のコラボレーションが「医療経営士富士山サミット」だ。今年の2月に第1回が開催され、山梨研究会代表の宮沢圭一氏(社会医療法人加納岩理事・財団事務局長)と静岡県東部医療経営研究会代表の田中賢司氏(医療法人社団宏和会岡村記念病院企画運営部部長)が登壇、地域医療構想についてそれぞれの地域性を踏まえたプレゼンが行われた。

第2回となる今回は、山梨側のプレゼンターとして社会医療法人加納岩加納岩病院事務部長の広瀬敦仁氏、一方静岡からは株式会社ニチイ学館の小林恵美子氏が登壇する。病院と企業という、それぞれ異なる視座を持つ2名のプレゼンに耳を傾けたい。

【開催概要】

- 日 時 2026年7月18日(土)10:00～12:00開催
- 会 場 ブラザヴェルデ403会議室(静岡県沼津市)
- 参加費 500円(施設利用料、資料代)
- プログラム

山梨のプレゼン

「民間病院事務部長の実践報告
～地域活性化の基盤としての医療機関経営～」
広瀬敦仁 氏
(社会医療法人加納岩加納岩病院事務部長/医療経営士3級)

静岡のプレゼン

「病院を離れたから言える。
東部の地域医療はこうなる。」
小林恵美子 氏
(株式会社ニチイ学館/医療経営士3級)

■お問い合わせ

静岡県東部医療経営研究会 事務局 田中賢司
TEL:055-991-1125
E-mail: tanaka@okamura.or.jp

お申込みは
こちらの
QRコードから



日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
7月17日(金)	関東	第63回神奈川研究会 「地域に価値をどう提供し続けられるか(仮)」	※参加者同士のディスカッション形式で開催
7月18日(土)	東海	第2回 医療経営士 富士山サミット	広瀬敦仁 氏(加納岩病院 事務部長、医療経営士3級) 小林恵美子 氏(ニチイ学館、医療経営士3級)
8月1日(土)	東海	第3回人生100年時代健康とお金	三田寛子 氏(岡村記念病院、心不全認定看護師) 羽田 裕 氏(東京海上日動火災保険株式会社代理店 東京海上日動 あんしん生命保険株式会社代理店、 有限会社久保田事務所、AFP認定者)
8月20日(木)	関東	神奈川研究会「合格者のつどい」 協会および医療経営士についての説明 ほか	荒井ゆき 氏(株式会社メディリリーフ代表取締役)ほか
9月18日(金)	関東	第64回神奈川研究会 「診療所と病院の理想のパートナーシップとは?(仮)」	※参加者同士のディスカッション形式で開催

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

7月1日(水)よりエントリースタート!!

第14回

医療経営士

1級

資格認定試験

試験日

受験形式

第一次試験

9月6日[日]

- ①短文記述形式(10題・90分)
- ②論文記述形式(2題・90分)

第二次試験

12月6日[日]

- 面接試験
- ①口頭試問(プレゼンテーション形式)
- ②個人面接

試験エントリー期間

7月1日(水)～7月29日(水)

受験料支払締切日

7月30日(木)

受験料

50,000円

※税込、振込手数料別途(受験者負担)

試験会場

東京都(中央区内)

医療経営士の最上級位にチャレンジしよう!

お問い合わせ・お申し込み先 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>